

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300116		
法人名	株式会社 マジェスティック		
事業所名	芦刈紀水苑		
所在地	小城市芦刈町永田3220-2		
自己評価作成日	平成24年1月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成24年3月15日	外部評価確定日	平成24年4月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療機関とは24時間連携が取れており、入居者様のみならず、ご家族、スタッフのすべてが健康管理への不安なく過ごせている。また、職員の離職が少ない上に、入居期間の長い入居者様も多く、入居者様・ご家族様とのなじみの関係ができていて、つながりが深い。理学療法士の指導を受けながら、リハビリ器具を使つての入居者様の機能維持に努めている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅地の一角に事業所があり、それだけに近所との付き合いや関わりが多く、普通に地域に溶けこんでいるグループホームである。職員は、利用者一人ひとりに敬意を持ち、それぞれ個々に応じた生活リズムで一日が過ごせるよう支援している。また、研修や勉強会にも多く参加し、他のグループホームとの連携もとれているホームである。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とのまじわりのなかで、ゆっくりと健やかにお互いを尊重しあう」を目標として、入居者さまに接している。玄関とリビングに理念を掲げて、いつも目に付きやすくしている。	地域密着型サービスの役割を踏まえた理念を玄関とリビングに掲示し、日々の業務を通して理念の確認と実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	会ったときには挨拶を交わしたり、漬物などいただいたりしている。また、地域の祭りの際には、苑内に来てくださり、太鼓の披露をしてもらったりして、交流してもらっている。近所の理美容店から散髪に来ていただいている。	地域の自治会に加入しており、会報などを通じ地域との交流も出来ている。お祭りの際には、外出困難な入居者のために、苑内で祭り太鼓が披露されるなど、入居者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設して9年目となり、苑の行事を通して、施設や入居者についての理解も深まってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	11月の運営推進会議にて、自己評価、外部評価についての問題点や改善点についての話し合いを持ち、意見交換をおこなっている。今期は家族会にも参加してもらっている。	会議には、家族や地域包括支援センターの職員、地区の消防団の参加もあり、外部評価などの報告がなされ、意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などを通して事業所の実情は理解してもらっている。担当者変更時の引継ぎもしていただき、協力関係が築けている。	行政担当者は、運営推進会議のメンバーでもあり、意見を聞いたり、相談事にも応じ、即座に対応できる連携は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による弊害、禁止行為については、勉強会を通して職員が正しく理解しており、拘束をしないケアの実践に努めている。玄関の施錠をしない代わりに、ドアベルなどにて、対応を行っている。	身体拘束廃止については、職員研修で検討を重ね、身体拘束が利用者にもたらす弊害を全員が理解し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関の施錠はせず、職員の気づきを促すために玄関のチャイムで対応されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して高齢者虐待についての理解を深めている。日常は、入居者様の表情などには常に注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して権利擁護についての理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、契約時には十分な説明を行い、理解を得ている。わかりにくいであろう点については細かく説明するように心がけている。スタッフも重要項目については理解できている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時にまず要望を聞くようにしている。また、玄関に意見箱を設置したり、家族会や面会時などにも、たづねるようにしている。	玄関に意見箱を設置している。年2回の家族会での職員との交流会や家族の面会時などで些細なことでも聞き取り、遠慮なく話をすることが出来る雰囲気づくりをしている。何かあれば速やかに対応できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回のスタッフ会議にて意見や提案を聞くようにしている。緊急事案については随時意見を聞き、反映させている。	管理者は、月1回のスタッフ会議などで意見や提案が出しやすい環境づくりをしている。出された意見や要望は検討され、運営に反映されている。開設当時から職員で異動はほとんどない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力・勤務状況について代表者は把握しており、できる限り給与などに反映させるようになっている。介護職員処遇改善交付金についても早急に対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人にあった研修機会を設けている。外部の研修も受けられるよう、研修日についての休み希望にも応じている。今期は特に階層別の勉強会への参加が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流研修や勉強会を通じて、交流機会を持っている。情報交換もできている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居まえに面会をし、本人または担当者から話を聞くことで、不安や要望を理解し、安心してサービスを開始できるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前もしくは、サービスを開始する段階で、ご家族からお話を聞くことで、よりよい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状をお聞きし、密に関わりをもつことで必要とされている支援を理解し行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の話聞いて頂き、励まされたりしている。入居期間が長い入居者様が多く、なじみの関係が築けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の悩みや話を聞くことで、結果的に共に入居者さまを支えられる関係になっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会についての制限などは行っていない。家族以外の友人や親戚など幅広く面会してもらえるようになった。ただし、事情がある場合には、その都度応じている。	車椅子利用の方が多くなり、馴染みの場所への外出も難しくなっているが、知人や親類などの面会があり継続的な交流ができています。行きたいところがある利用者には、家族の協力を得て外出支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居期間が長い方が多いため、お互いに助け合われる場面が多い。苦手な方がいる場合には、職員の方で、うまく対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄) 実施状況	外部評価 (評価機関記入欄)	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の相談や問い合わせにはいつでも対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ひとりひとりの希望には可能な限り応じるようにしている。ただし、希望が出ない場合が多いため、ご家族などの意見も参考に対応している。専門的な知識が必要な場合には、各方面に相談を行い対応している。答えの出やすい問いかけを心がけている。	入居時の本人の性格や生活歴の情報をもとに、日々の関わりの中で声をかけ、思いや意向の把握に努めると共に、表情や動作を観察し、本人本位のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に生活歴を聞き取りし、これまでの状況の把握に努めている。また、生かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察を細かく行い、状況把握に努めている。健康状態については、一日2回のバイタル測定を行い、経過観察を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議で全スタッフから意見を聞いたり、本人からはなかなか意見や要望はでないが、家族からの要望は聞くようにしている。ケアマネなどの専門的な意見も盛り込んで介護計画を作成している。	家族には面会時などに介護計画の確認や要望を聞き、担当者を中心にモニタリングが行われている。月1回のスタッフ会議では、全職員が観察した入居者の思いや変化などを出し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化・気づきなど細かく記録するように努めている。経過記録だけでなく、個別に必要な情報を体温表などに記録をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援、サービスは行えていると思う。(リハビリ・一時的に環境を変えるなどして本人、ご家族の希望に沿うような対応を行ってきた)		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の一員として施設を受け入れてもらっており、その中で安心して暮らしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、今までのかかりつけの医師への通院か、苑への往診のどちらかを選択してもらっている。 必要に応じて、専門科への受診にも対応している。	家族や本人の希望での診療は受けられるようになっているが、入居者全員が協力医の往診を希望されている。必要があれば医療での訪問看護も受けられ、緊急時を含め24時間の対応がなされている。専門医への通院は基本的に家族に依頼しているが、要望があれば付き添い、対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間いつでも連携が取れており、気付きや変化にはいつでも対応してもらえる体制をとっている。それにより必要な受診や訪問看護を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行くなどして、病院関係者との情報交換をしながら、早期退院に向けて対応している。病院関係者にも施設の状況を理解してもらえるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設でできるターミナルケアについて説明している。ターミナルと診断された入居者様に関しては、今後のケア方針について医療機関・ご家族・施設職員の話し合いの場を持ち、共通のケアをするようにしている。	看取り介護の指針・手順があり、入居時に家族に説明されている。利用者の重度化や終末期に向けて、主治医、家族と常に話し合い、関係者全員で方針を共有し、取り組んでいる。今まで一人の看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の訓練は今期は行っていないが、急変時にはいつでも対応できるような体制を整えているし、また対応してきた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。消防署や地域の消防団の方にも参加してもらっている。	地域の消防団立会いのもと、職員全員が参加し、昼夜を想定した年2回の避難訓練を実施し、専門的な指導も受けている。避難場所は近くの民家の空き地に定め、家族にも伝えていく。地域の立地条件から高潮などの災害も予想し、自然災害のマニュアルも作成している。	職員だけの避難誘導には限界があると思われる。地域住民の参加協力を得た避難訓練を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にプライバシーを意識した言葉かけをこころがけながら接している。	日々の介護支援や言葉かけにも工夫し、利用者の人格や誇りを損ねることがないように心がけている。また写真など個人を特定するものの取り扱いは家族に了承を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか希望が出ないのが実状だが、答えが出やすいような言葉かけをこころがけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の一日の流れはあるが、その時々の方のペースに対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所に鏡とブラシを用意して、ご自分で整髪したりできるようにしている。着替えの用意を手伝うときは、好みのものをたづねたり用意するようにしている。好みを理解し、用意したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けに関しては手伝える方がかなり少なくなってきた。食事に関しては個別にメニュー自体を変更する事もある。	職員も入居者のそばでそれとなく支援しながら、同じ食事を一緒にいただいている。盛り付けなど工夫され、高齢者向きの薄味で柔らかめの食事が提供されている。要望があればおかわりもできる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの摂取量を把握するようにしている。不足するときは高カロリーの飲み物を使ったり、とろみをつけたり、飲み物の種類をかえたりして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの能力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレチェック表で一人一人の排泄の状態と排泄パターンを把握して対応している。下着とりハパン類の使い分けも心がけている。	排泄チェック表で、一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立したトイレ排泄が出来るようさりげなく誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に取ってもらうようにし、排泄状態も把握している。腹部マッサージなども行っている。個別に整腸作用のある飲み物を飲む方もおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には週3回の入浴・清拭を行っているが、その都度応じている。入浴剤などを使って入浴を楽しめるようにしている。	決められた入浴日はあるが、希望があれば毎日でも入浴はできる。皮膚の状態等を観察しながら、入浴剤を使い分け、入浴を楽しめるよう工夫がなされている。入浴を嫌がられる利用者には、言葉かけや対応の仕方を工夫し、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望に応じて休息してもらっている。室温などにも気をつけながら、気持ちよく眠れるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については、すぐに確認できるようにファイルしている。服薬の変更があったときには申し送りノートで周知し、体温表などにも記入してわかりやすくしている。また服薬漏れがないようにチェックボードを用意するなど工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の状態に応じて対応している。ちょっとした手伝いでもお願いすることで、できる喜びを感じてもらっている。ただし逆の状態もあるので、その時々に応じて対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年行事として、外出の機会を設けるようにはしているが、今現在の状況としてはなかなか難しい状況にある。ご家族に協力いただいて、近くまでのドライブや散歩をお願いしたり、職員でも対応している。	車椅子の入居者が増え、日常的な外出は少なくなってきたが、近くの神社まで散歩に出かけることなどもある。四季を通して、家族の協力を得て外出することもある。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解はしているが、お金を所持する方は少なくなったり、使える方も少ない。お守りのようにしてもたれているかたがいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる方からの希望には対応している。ご家族に手紙を書いてもらったり、電話にも応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者さまにとって心地よい空間となるよう、わかりやすい言葉を使うように気を配っている。季節がわかりやすいような室内の装飾などにも心がけているし、ご家族からの協力もあり、いろいろなものを送ってくださることが多い。大きな日めくりカレンダーは日にちを理解するのに重宝している。	明るいきりびんぐにはソファやテーブルが設置され、利用者は、思いおもいに過ごしている。共用空間の壁面を利用し、書道などの作品を展示したり、季節を感じさせる装飾がなされている。また、室温の管理もできており、時々窓を開けての換気も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼ全員の方が、一日のほとんどをリビングで過ごされるが、そのときには気のあった方同士の席にて過ごされている。時には自室に戻ってすごされる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものを持ち込むことを進めてはいるが、それを嫌う方もおられるので、その方に対応している。荷物が多い事がかえって不穏の原因となることもあるので、気を配っている。	居室は広く、馴染みの品の持ち込みは可能である。使い馴れた椅子や鏡などが置かれ、一人ひとりに合ったその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には目印をつけたりしている。必要と思われる場所には手すりを設置して安全かつ残存能力を活かしてにすこせるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない